

学生募集ポスター 最優秀賞受賞者紹介

1面でお知らせした2010年度学生募集ポスターの学内公募に、最優秀賞を受賞した学生のコメントをご紹介します。



このポスターは、「卵」をモチーフにして制作しました。各学科のイメージをシルエットにして、それらが卵を形成しているように見えるように、たくさんの物を詰め込んでいます。

卵とは、成長過程の出発段階であると私は考えています。

その卵を使うことで、新しい大学生活の始まりの意味を込めました。また同時に、卵の未来を予感させるイメージから、この大学で経験を積んで大きく成長してほしいという願いも込めています。

このポスターを見て、少しでもこの大学に興味を持ってくれれば嬉しいです。

原 恵里奈(美術科デザイン専攻ビジュアルデザイン2年)

別府混浴温泉世界に参加して

4月11日～6月14日にかけて行われた別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」。本学でも、情報コミュニケーション学科や国際文化学科の講義で取り上げ、それに刺激されて多くの学生が参加しました。

左は、そんな学生の声です。



私は、今回「混浴温泉世界」というイベントに参加しました。

海外の作家さんの美術作品、国内の若手アーティストによる展示ダンスなど、「別府」というキーワードを元に創作されたものばかりでした。

その中で、海外の作家さんの展示の案内・紹介を、ボランティア・スタッフとしてお手伝いしました。地元や県外、様々なお客さまに来て頂きました。「別府」という場所だからこそ生まれた作品で、建物や周りの環境あったものばかりでした。来てくださった方々も、とても満足していたようでした。

私も、今回お手伝いさせて頂き、いろんな方々ともお話できて、本当に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

植野 友梨恵(国際文化学科2年)



オーストラリア 留学記

オーストラリア語学研修を終えて

国際文化学科2年生
山口 日香理

Epistula15号で紹介した「スピーチ・コンテスト」で優勝し留学した国際文化学科の学生が、オーストラリアでの体験を語ってくれました。

私がこのオーストラリア語学研修を目指して、スピーチコンテストに応募した動機は、異文化交流において大きな役割を果たす英語を実際に英語圏で勉強し、活用してみたいと思ったことであつた。

2月15日、福岡国際空港からシンガポール経由でブリスベン空港に向かうといった長旅を終え、待ちに待った初の英語圏に到着。

空港で耳に入ってくる英語がとても新鮮で、これから始まる約6週間のオーストラリア滞在にワクワクした気持ちを抑えることができなかつた。そして、ホストファミリーとの対面に期待と不安の入り混じった気持ちを抱きながら、ホームステイ先へと向かつた。ホストファミリーはとても明るく気さくで、私の誕生日にはホストマザーがチョコレートたっぷりの誕生日ケーキを作ってくれた。また、休みの日には家族みんなでオーストラリアの最東端であるパイロンベイにも行き、オーストラリアの美しい自然を満喫することができた。平日はバスに乗って語学学校に通つた。通学の際、私はバスの中で友達になつたトニーと話をすることが日課となつていた。

語学学校でも、さまざまな国籍の友達があつた。語学学校で感じたことは、他国の学生は想像以上に自己主張があつているということであつた。例えば、授業でディスカッションをした際に、他国の学生はたとえ英語の文法や時制があつていなくても、とにかく発言した。彼らは発言することに何もためらいなど持っていなかつた。日本人は海外の学生のそういった面を見習う必要があると感じた。他にも、日本では学べないことをたくさん知ることができた。

この春休みは私の今までの人生において最も充実したものであり、宝物となつた。この貴重な経験を活かすことができるかは、これから先の私の努力次第だと思ふ。今後、この経験が素晴らしいものであつたと思えるように、これからも日々精進していきたい。

